

木のぼろばがたけ



のはらに、うさぎさんと りすさんと きつねさんが すんで いました。
3にんは、なにを するのも いつも いっしょ
まいにち、なかよく あそんで いました。

「おはよう、うさぎさん。きょうも いいてんきだね。」
「おはよう、りすさん。きょうは なにしてあそぼうか。」



あるひの ことです。
みみずくの おじさんが、やってきておしえて くれました。
「あの もりの むこうに、すてきな おはなばたけが あるんだよ。」

「おはなばたけだって。 行って みたいなあ」
「どんな おはなが さいて いるのかな。」
もりの むこうの はなばたけの ことを かんがえると、
むねが わくわくして きました。
「ねえ、みんなで 行って みようよ」



3にんは、もりの おこうの はなばたけを めざして
げんきに うたを うたいながら しゅっぱつ しました。

もりに つづく こみちを あるいて いくと、
はっぱの トンネルが みえて きました。
そこを とおり すぎると、こんどは つりばし です。
「とっても たかくて、 ゆらゆら しているよ。」
と、りすさんが いうと、
「どうしよう。 こわいなあ。」
と、うさぎさんは しんぱいに なって きました。
「だいじょうぶだよ。 わたろうよ。
この つりばしを わたらないと おはなばたけに いけないよ。」
きつねさんの ことばを きいて、
うさぎさんは、ゆうきを だして わたる ことに しました。

3にんは、
ゆらゆら ゆれる つりばしを、
こわごわ、わたり、
また、どンドン あるいて いました。



しばらく あるくと、
すこし くらい もりの なかに はいって いました。

「おや、あれは なんだろう。」

3にんは、なにかを みつけた ようです。

「いって みようよ。」

「うん。」

「なんだか こわそう。」

「みつかる と たべられちゃうかも……」

3にんの むねは、ドキドキして きました。

その ときです。

ふるい おおきな おうちです。

「こんな ところに おうちが あったんだ。」

「いったい、だれが すんで いるんだろう。」

3にんは、きの かげから そっと のぞいて みました。



ギギーッ、バタン!

まどが、とつぜん ひらきました。

きゃー! たべられちゃう。

3にんは、
びっくりして、
うしろも ふりむかないで、
はしりだしました。



「ここまで きたら、もう だいじょうぶだね。」

「うん、こわかったね。」

ほっとして、3にんは かおを みあわせました。

すると、3にんの かおに、ポツ、ポツ、ポツ……。

あめです。

「どうしよう。いっぱい ふって きた。」

「おはなばたけなんて もう いいから、かえりましょう。」

「いやだよ。せっかく ここまで きたのに。」

3にんは、いまにも なきだしそうでした。

それに、はなばたけに いく ためには、

めの まえに ある、

まるたの いっぽんばしを わたらなくては なりません。

かわの みずが ゴーゴーと おとを たてて ながれて います。



「こんなところ、こわくてわたれないよ。かえろうよ。」
と、うさぎさんがいったとき、
「あーい。」
と、もりのほうからこえがしました。
そして、こえと いっしょに ガサガサと おとを たてて、
なにか おおきな ものが ちかづいて きます。
「きっと さっきの いえの なかに いた やつだ。」
「どうしよう。にげなきゃ。」

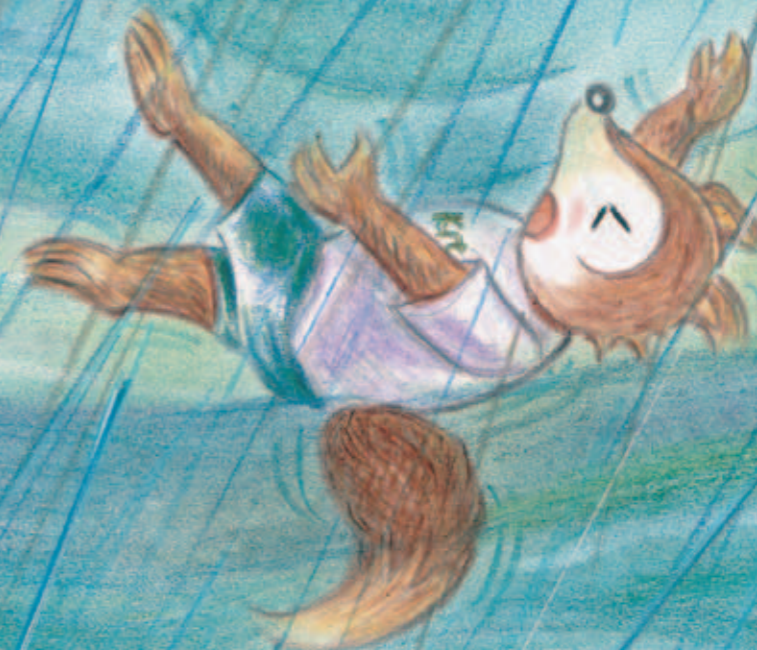
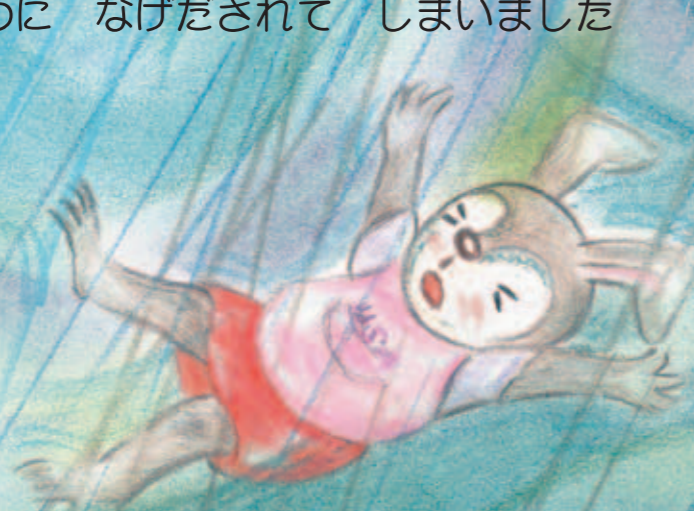
「よし、この はしを、いそいで わたって しまおう。」
きつねさんは、おもいきって、ふたりの てを ひっぱって、
はしを わたりはじめました。



あっ、あぶない!

わあっ。

まるで いっぽんばしと いっしょに、
3にんは、
かわに なげだされて しまいました



きゃー!

たすけてー!

かわは、どんどん 3にんを ながして いきます。
3にんには、どうする ことも できません。

からだ が しずんで、
「もう だめだ。」
と おもった そのとき、

ふわあっと、
3匹の からだが、かわから すくいあげられました。
「もう、 だいじょうぶだよ。」
あたまの うえから だれかの こえが しました。
3匹は、 こえが する ほうを みあげて びっくり しました。



「ちょっと まってよ。そんなに おどろかないでよ。
ぼくは、モリルって いうんだ。」

「モリル？」

「うん。ずっと もりに すんで いるんだ。」

きみたち、さっき ぼくの うちの ちかくに いただく。

あめが たくさん ふって きたから、

しんぱいに なって みに きたんだ。

あぶない ところだったね。」

「ありがとう、モリル。」

「きみが とっても おおきかったから、
こわそうだなあと おもったんだ。」

「にげたり、こわがったりして、ごめんね。」

「こんな もりの なかをどこに いこうと して いたの。」

3匹は、もりの おここの はなばたけの ことを はなしました。

「ぼくも、きみたちと いっしょに いきたいなあ。」

モリルが いうと、3匹は、

「いいよ、いいよ。いっしょに いこうよ。」

と、こえを あわせて いいました。

いつの まにか、あめは やんで いました。
モリルは、かるがると 3にんを かたに のせ、あるきはじめました。
「わあ、たかいな。」
「とおくの けしきまで、よく みえるね。」
4にんは、たのしそうに はなしを しながら あるいて いました。

「あっ、むこうに おはなばたけが みえる！」

そこは、みみずくのおじさんが いった とおり、
とても きれいな はなばたけが ひろがって いました。

すてきな かおりの する その はなばたけで、
みんなは、なかよく あそびました。



「モリル、これは たすけて くれた おれいだよ。」

きつねさんと うさぎさんと りすさんは、
はなで つくった くびかざりを、モリルに かけて あげました。

「ありがとう。また いっしょに あそぼうね。」

モリルも、うれしそうです。





そらには、おおきな にじが かかって いました。
4にんは、その にじを いつまでも いつまでも ながめて いました。